opusdei.org

## 黙想:聖バルナバ使 徒(6月11日)

黙想のテーマ:「聖パウロの協力者」「実りある厳しい生活」「初期キリスト者の多様性」

聖パウロの協力者

実りある厳しい人生

初期キリスト者の多様性

使徒言行録を読むと、聖パウロの使 徒的な旅を、生涯、助けた多くの協 力者がいることに気づかされます。 異邦人への使徒であるパウロは、常 に他者を頼り、自分ひとりでするともができる人でした。「パウロるとせず、他者と協力するは "ソリスト"として一人で行動す"のするはで、教会という"私たち"のはなく、教会と共に行動するの中の"私"であり、使徒的信仰の"私"であり、使徒的信仰の"私たち"の中の"私"なのです」
[1]。

彼の最も親しい仲間の中で、特に重要な役割を果たした人物は、聖バルナバでした。 キプロス出身のレビ族のユダヤ人で、イエスの復活後、エルサレムで最初に信仰を受け入れた一人です。 困窮者を助けるために、彼は所有していた畑を売り払い、そのお金を使徒たちに与えました(使徒言行録4・37参照)。 この寛大さは、孤立した出来事ではなく、彼の

生涯を通して一貫していたものです。

福音が、シリアのアンティオキアで 温かく受け入れられたという知らせ がエルサレムに届くと、使徒たちは バルナバをそこに送ります。「到着 すると、神の恵みが与えられた有様 を見て喜び、そして、固い決意を もって主から離れることのないよう にと、皆に勧めた| (使徒言行録 11・23)。その後、サウロを探しに タルソスに行き、サウロを見つける と、バルナバはサウロをアンティオ キアに連れて行きます。「聖霊に よって送り出された」(使徒言行録 13・4) バルナバとサウロは、その重 要な都市を宣教するために、丸一年 間共に働きます。 そこで、キリスト の弟子たちは初めて〈キリスト者〉 と呼ばれます。その後、バルナバは 聖パウロの最初の盲教の旅に同行 し、キプロスと小アジア(現在のト ルコ)を巡ります(使徒言行録

13-14章参照)。「勇気に満ち」 (使徒言行録13·46)、彼らは主の ために多くの苦難を味わいます。 聖 バルナバのおかげで、「主の言葉は その地方全体に広まった」(使徒言 行録13·49)。

バルナバは「立派な人物で、聖霊と 信仰に満ちていた」(使徒言行録 11・24)。彼の一生を通して、その 使徒としての最初の行いから死にい たるまで、福音の疲れを知らない証 人でした。彼の使徒としての熱意 は、典礼記念日に読まれる聖書の句 に表されます。「行って、『天の国 は近づいた』と宣べ伝えなさい。病 人をいやし、死者を生き返らせ、重 い皮膚病を患っている人を清くし、 悪霊を追い払いなさい。 (…) 帯の 中に金貨も銀貨も銅貨も入れて行っ てはならない。旅には袋も二枚の下 着も、履物も杖も持って行ってはならない。働く者が食べ物を受けるのは当然である」(マタイ10・7-10)。

バルナバが福音を広めるために熱心 に働いたのは、使徒としての使命に 自分の人生の意味を見出したからで す。彼は主が弟子たちに求めたよう に、完全に寛大に働きました。「た だで受けたのだから、ただで与えな さい | (マタイ10・8)。使徒言行録 には、神が彼の努力を豊かな実りで 祝福されたことが記されています。 例えばアンティオキアでの盲教のお かげで、「多くの人が主へと導か れ」(使徒言行録11・24)ました。 彼の祝日における集会祈願の中で、 典礼は、彼が熱心に宣べ伝えたキリ ストの福音が、言葉と行いによっ て、忠実に伝えられるようにと神に 嘆願します。

聖ホセマリアはこう書いています。 「この世に生きる人間にとって、何 が宝物であるかを教えてあげるか ら、無駄にせず、活用しなさい。そ れは、飢え、渇き、暑さ、寒さ、苦 しみ、不名誉、貧困、孤独、裏切 り、中傷、牢獄などである | [2]。こ れらの宝物は、パウロとバルナバの 宣教活動の冒険に頻繁に同行しまし た。「この使命が私たちに大きな寛 容さを要求するのは事実ですが、こ れを英雄的な個人の事業と見なすの は間違いです。 福音化のあらゆる活 動において、その主導権は常に神に あり、神は私たちをご自分と協力す るようにと召され、ご自分の霊の力 によって私たちを導いてくださいま す。 (…) この確信があるからこ そ、私たちは、私たちの全生涯を左 右するほど厳しく挑戦的な任務のた だ中でも、喜びの精神を保つことが できるのです。 神は私たちにすべて を求め、同時にすべてを与えてくだ さるのです | 131。

パウロとバルナバは、二度目の宣教 旅行の初めに、若いキリスト者であるマルコのことで対立します。バルナバはマルコを連れて行こうとのがいませんが、パウロは、マルコが前のしたちを見捨てたので拒否したのです(使徒言行録13・13、15・36-40参照)。この不和のために、二人の道は分かれました。バルナジロスへ行きはマルコを連れてキプロスへ行きはマルコを連れてキプロスへ行きは彼らを置いて旅を続けました。

聖徒の間にも意見の相違が生じることがあります。ある者が他の者と異なる意見や見解を持つのは当然のとです。「聖人たちは『天から下ってきた』わけではありません。聖人たちも、私たちと同じように複雑な問題を抱えた人間です。 聖性は、失敗しないことでもありません。 聖性

は、回心し、悔い改め、進んでもう一度やり直す力によって、何よりも和解とゆるしの力によって成長するのです。私たちを聖人とするのは、決して過ちを犯さないことではなく、和解とゆるしの力です | [4]。

聖バルナバが経験した最初のキリス ト教徒たちの雰囲気は、私たちの模 範となります。なぜなら福音は、大 きく異なる一人ひとりの人生を照ら すからです。聖ホセマリアは、この ような最初のキリスト教共同体から 教訓を学びました。「オプス・デイ のメンバーの間に存在し、これから も存在するであろう多様性は、善良 な精神、誠実な生活、それぞれの正 当な意見の尊重のしるしですした。 私たちは、聖母の取り成しを通し て、聖バルナバの使徒的熱意を、そ して、最初の弟子たちがしたように キリスト教的雰囲気を活気づけるた めの恵みを、神にお願いすることが できます。

すべてのキリスト者は、神から授かった賜物を頼りに、個人の召命に従って福音に仕えます。私たちが常に忠実であるために、天の母、使徒の元后の助けに頼ります。 私たちを決してお見捨てにならないよう、お願いします。

- [1] ベネディクト十六世、一般謁見 演説、2007年1月31日。
- [2] 聖ホセマリア『道』194番。
- <u>[3]</u> フランシスコ『福音の喜び』12 番。
- [4] ベネディクト十六世、一般謁見 演説、2007年1月31日。
- [5] 聖ホセマリア『会見集』38番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/sei-barnaba/ (2025/12/15)